

6次産業化の取組事例集



平成29年3月

和歌山県6次産業化サポートセンター
和歌山県中小企業団体中央会

和歌山県6次産業化 サポートセンターのご案内

6次産業化サポートセンターは、農林漁業者が6次産業化に取り組もうと考えている方の課題に対応できる6次産業化プランナーを登録しており、総合化事業計画の作成支援や商品開発、販路開拓等の相談や助言など通じて支援活動を行っています。



6次産業化の総合化事業計画とは

農林漁業者等が、農林水産物及び副産物の生産及びその加工又は販売を一体的に行う事業活動に関する計画を策定し、農林水産大臣が認定する制度です。

認定を受けると新商品の開発や加工設備、直売所の設置等に取り組む際に、融資や交付金等の支援を受ける事が出来るなどの各種メリットがあります。

認定を受けるための要件

1. 事業主体

- 農林漁業者(個人・法人)または、農林漁業者の組織する団体(農協・集落営農組織等)が行うものであること。
(加工・流通業者等を「促進事業者」として位置づけることも可能)

2. 事業内容

- 自らの農林水産物を原材料とした新商品の開発・生産又は需要の開拓
- 自らの農林水産物を原材料とした新たな販売方式の導入又は販売方式
- 上記を行うために必要な生産の方式の導入及び改善

3. 経営の改善

- 対象商品の指標……農林水産物及び新商品の売上が5年間で5%以上増加すること
- 事業主体の指標……農林漁業及び関連事業の所得が、事業開始から終了までに向上し、終了年度は黒字になること

はじめに

6次産業化は、農林漁業者が地域資源を活用して新しいビジネスの展開や営業形態を創出し、農山漁村の雇用と所得を確保することを目的とした「農林漁業者等による新規事業の創出及び地域資源を活用した新事業の創出等及び地域の農林水産物の利用促進に関する法律」(6次産業化・地産地消法)が平成23年3月に施行され、全国的に展開されました。

和歌山県では本県中小企業団体中央会が平成24年から和歌山県6次産業化サポートセンター事業を国、県から受託し、総合化事業計画の作成、商品開発、並びに販路開拓等の支援を登録プランナーとともに活動してまいりました。その結果、現在では総合化事業計画認定事業数は65件となり、多くの事業者の方々がご活躍されております。

今回、本事業受託後5年という節目において、事例集を取りまとめさせていただきました。

掲載している事業者は、総合化事業認定を受け、6次産業化に取り組んで3年を経過をしている事業者で、今後さらに展開が期待される事業者や民間会社を退職された方及び県内移住をされた方で新規に就農され、6次産業化に積極的に取り組んでいる事業者の中から抜粋した11事例を掲載させていただきました。

本事例集が「守る農林水産業から攻める農林水産業」を目指し、6次産業化の取組の拡大や新規にチャレンジされる農林漁業者のみなさまに参考となりましたら幸いです。

平成29年3月吉日

和歌山県6次産業化サポートセンター
和歌山県中小企業団体中央会

目 次

かんじゃ山椒園	1
月向農園	2
ほりぐち農園	3
藪本畑下農園(株式会社 藤桃庵)	4
橋爪農園	5
有限会社 紀州高田果園	6
株式会社 早和果樹園	7
株式会社 イブファーム	8
紀伊路屋 長谷農園	9
カワバタファーム	10
株式会社 八旗農園	11

ぶどう山椒発祥の里から届ける 風味豊かで最良の山椒加工品開発

かんじゃ山椒園

事業者概要

- ・所在地：和歌山県有田郡有田川町宮川129
- ・代表者：永岡冬樹
- ・設立年：平成18年
- ・従業員：臨時雇用4人

事業者沿革

- ・平成18年：民間会社退職後帰省し、家業の農業に従事し、山椒栽培開始
屋号のかんじゃを「かんじゃ山椒園」と名称して、山椒加工品開発
- ・平成22年：山椒栽培している農家と「しみず山椒の会」設立し、加工施設を整備
- ・平成23年：6次産業化総合化事業計画認定取得



かんじゃ山椒園



取組内容

- 平成18年以降、山椒栽培と山椒の加工品を開発し、インターネットでの販売を開始。
- 山椒加工施設を整備後、山椒佃煮、山椒味噌、山椒ジャムなど多数の商品開発を行う。
- 山椒風味を生かした田舎カフェに取り組み他、食品加工業者と連携して新商品開発に取組み、山椒香味油を開発。
- 平成26年頃から、良質の山椒をベルギー、フランス、スイス、イタリア等欧州等の海外輸出に取り組んでいる。

取組成果

- 各種商談会参加や百貨店催事等への出展通じて、販路が拡大。
- 食品加工業者との連携で新商品の開発を行い、売上が増大。
- 平成25年にホームページ更新し、ネット通販含め新たな顧客が拡大した。
- 新聞、テレビ、雑誌等メディアに再々取り上げられ山椒加工品の販売拡大と山椒による地域活性化に繋がる。

今後の展開

- 山椒の機能性や新たな調理法で需要の拡大を図る。
- 欧州含め海外輸出の販路拡大を目指す。
- 山椒以外の肉桂、赤紫蘇、ゆず等の地域資源生かした山村での自立した農業後継者の育成を図り、併せて地域と連携して山椒の里の活性化を目指す。



山椒佃煮



山椒香味油



田舎カフェ

あなたのもとへ「農園の風が届きますように」想いを込めた梅専業農家

標高100mの自然の恵みを 浴びた園で栽培した梅加工品開発

月向農園



月向農園

事業者概要

- ・所在地：和歌山県日高郡みなべ町晩稲 1160
- ・代表者：月向雅彦
- ・設立年：平成12年
- ・従業員：3名(臨時雇用)

事業者沿革

- ・昭和61年：大学卒業後、梅専業農家の後継者として就農
- ・昭和63年：梅干しの製造を開始し、6次産業化に取り組む
- ・平成20年：梅肉エキスの商品開発し、経営の中核となる
- ・平成23年：6次産業化総合化事業計画認定取得

取組内容

- 傾斜地梅園の栽培の作業環境を改善するために、梅園2haを基盤整備して品質向上に取り組む。
- 食品飲料会社と連携して、梅ピューレの商品開発を行い、業務用として順調に売上を伸ばす。
- 平成12年に「月向農園」と名付けてネット販売を開始、現在はスマホ対応にも重点を置き、販路開拓を行っている。
- 平成24年に農園の立地環境を活かして、ゲストルーム整備し、消費者との農業体験型交流も実施している。

取組成果

- 梅園の基盤整備に取り組んだ結果、梅の栽培・加工・販売に容易に取り組むことが出来た。
- 園主自ら手作りでホームページ作成し、他の農家や事業者のホームページと比較して月向農園の由来や園地特徴、梅栽培にかかる想い等がわかりやすく大変好評である。
- 月向農園の栽培、加工の取り組みが雑誌、書籍、テレビなど様々なメディアで紹介され、月向農園の知名度が高まり販売拡大に繋がった。
- 食品加工会社と連携した梅酒など商品の開発に取り組み、売上高も順調に伸びている。

今後の展開

- 梅収穫時の雇用の確保が課題であり、その対応策について地域や関係機関とも連携して取り組んで行く。
- 梅生果そのものの付加価値を高めるため食品加工業者と連携し、梅の味の価値をマックスするプロジェクトに取り組んで、工芸品的な商品開発を目指す。
- 月向農園の梅栽培にかかる想いを理解して頂き、消費者に喜ばれる高品質な南高梅、加工品の開発に取り組む。



梅シロップ

ブランデー梅酒



梅シロップ



ゲストルーム



梅肉エキス

完熟梅のふくよかな香りを 際立たせる梅シロップの開発

ほりぐち農園

事業者概要

- ・所在地：和歌山県日高郡みなべ町晩稲344
- ・代表者：堀口育男
- ・設立年：平成10年
- ・従業員：6名(臨時雇用)



ほりぐち農園の梅

事業者沿革

- ・平成4年：高校卒業後、家業の梅農家の農業後継者として就農
- ・平成9年：梅干し製造を開始し、生産と加工、販売の6次産業化に取り組む
- ・平成24年：6次産業化総合化事業計画認定取得
- ・平成26年：6次産業化ネットワーク活動推進事業交付金を活用し、梅シロップ等の開発

取組内容

- 園地状態が異なる14枚の梅園で、樹なり完熟南高梅生産に徹し、品質向上に取り組む。
- 完熟南高梅の甘くやさしい香りの梅シロップ及び濃熟コンフィチュールの商品開発・販売。
- 梅シロップ、梅ジャムの販路拡大を図るため各種商談会に積極的に参加し、売上が伸びる。
- 昔ながらの白干し加工品を見直して、より品質の高い白干し梅の製造にも取り組む。

取組成果

- 6次産業化総合化事業計画認定取得後、商談会、百貨店催事等への出展で販路拡大に繋げ、通販取引も増加した。
- 梅シロップ等の新商品販路開拓に並行して、梅肉等の既存加工商品の販売拡大に繋がった。
- 完熟梅栽培の取組についての認知度や評価が高まることにより、取引先や消費者からの問合せ増加し、売上高も増加した。
- 6次産業化を目指した結果、百貨店、スーパーのバイヤー始め取引先や支援機関の関係者と人的ネットワークが出来た事が何よりも大きな成果である。

今後の展開

- 商品開発や販路開拓・拡大に伴い、梅加工施設の新築整備を目指す。
- 生産と加工、販売の6次産業化を更に強化拡大するために、新規常勤者の雇用や法人化を目指す。
- 梅専業農家としては、加工品の原材料である南高梅の高品質生産に取り組む。



梅シロップ



コンフィチュール



白干梅干

「奇跡のりんご」のような桃栽培と加工品開発に挑戦する農家夫妻

桃農家がつくる本格 ジェラート・ジャム製造・販売

藪本畑下農園(株式会社 藤桃庵)

事業者概要

- ・所在地：和歌山県紀の川市桃山町元901
- ・代表者：代表取締役 藪本周也
- ・設立年：平成24年
- ・従業員：2名(常勤パート雇用)



ジェラート工房藤桃庵

事業者沿革

- ・平成17年：農業後継者として就農し、藪本畑下農園の桃栽培を開始
- ・平成24年：6次産業化総合化事業計画認定取得し、ジェラート工房を整備
- ・平成26年：ジェラート店舗「藤桃庵」を開店
- ・平成27年：藪本畑下農園を組織改革し、「株式会社藤桃庵」を設立

取組内容

- 平成26年4月ジェラート工房「藤桃庵」をオープンし、桃のジェラート「桃みるく」を開発して、藤桃庵の看板商品となる。
- 桃ジャム、桃アイスデコレーションケーキ等多数の商品アイテム開発やパッケージ制作しギフト商品開発に取り組む。
- ホームページやFacebookで加工や桃栽培など日々情報発信を行い好評を得ている。
- 顧客の幅広いニーズに対応するため、各種イベントや有名百貨店催事にも積極的に出店している。

取組成果

- 藤桃庵の桃ジェラートが市内外で大変好評であり売上高も順調に増加し、平成27年に株式会社藤桃庵を設立する。
- テレビ局や新聞等多数のメディアの取材も増加し、農業地帯における若い農業後継者夫妻の桃ジェラート製造・販売の活躍が、地域農業の活性化に繋がっている。
- 藤桃庵の活躍が認められ、平成27年に和歌山県の「1社1元気技術」に登録される。
- 県外の有名百貨店からの催事出店要望も多く、また県内の各種イベント関係者からの出店要望も多数あり、積極的に対応している。

今後の展開

- 地域に貢献できる藤桃庵になれるように、ひとつひとつ積み重ねて行くことを先ず第一に目指している。
- より安全で美味しい桃を生産し、安心安全で多様な消費者ニーズに喜ばれる桃ジェラートの新商品開発に取り組み、地域の各種イベントや百貨店催事の出店に積極的に取り組む。
- 消費者ニーズに対応するため桃栽培面積を拡大し、加工原料の安定生産に取り組む。



桃みるく



イタリアンジェラート



桃園と家族

アボカド・ホワイトサボテ・

キュウリの6次産業化

橋爪農園

事業者概要

- ・所在地：和歌山県海南市下津町中385
- ・代表者：橋爪道夫
- ・設立年：昭和56年
- ・従業員：2名(常勤雇用)



アボカドの樹木

事業者沿革

- ・昭和56年：民間会社退職後就農して、柑橘栽培及び新規にトマト水耕栽培始める。
- ・昭和61年：アボカド、ホワイトサボテを新規導入して栽培開始
- ・平成3年：キュウリのハウス栽培始める
- ・平成25年：6次産業化総合化事業計画認定取得

取組内容

- 就農当初は実家の柑橘主体の農業経営を行っていたが、当時ブームであったトロピカルフルーツのチエリモヤのハウス栽培を行う。
- チエリモヤ栽培は5～6年行うが、栽培上の課題もあって、アボカド、ホワイトサボテの栽培に取り組み、現在は苗木の生産と販売も行っている。
- 平成25年に6次産業化総合化事業計画認定を取得し、併せて日本政策金融公庫の農業改良資金融資を受けて加工施設を整備し、アボカド、ホワイトサボテのジェラートの製造を始める。
- キュウリの粕漬け、浅着け等の漬物製造・販売にも取り組んでいる。

取組成果

- アボカド・ホワイトサボテのジェラートを開発し、6次産業化に取り組んで、知名度も高くなり各方面からの問合せも増加し、売上も伸びている。
- 農協農産物直売所、各種イベント等に出店し、レストランとの取引もあり、販路拡大中である。
- トロピカルフルーツの生産と加工開発について、NHK、民間テレビ局や新聞等メディアからの取材も多く、それに伴い県外からの視察・見学者が増加した。

今後の展開

- より美味しいトロピカルフルーツの生産と加工開発に取り組む。
- 更に加工品の販路拡大を行っていくには、原材料の安定的な確保が必要であることからアボカド等の栽培面積の拡大とピーカンナッツ(ペカン)等の新品種の導入に取り組む。
- 高級食品店や百貨店、レストラン、飲食店等への販路拡大を図るとともに、食品加工業との連携による新商品開発を目指す。



アボカド



アボカド・ホワイトサボテのジェラート



ホワイトサボテ

有機栽培の南高梅によるJAS有機 紫蘇梅干し及び梅酒の商品開発

有限会社 紀州高田果園



事業者概要

- ・所在地：和歌山県日高郡みなべ町晩稲849
- ・代表者：代表取締役 高田智史
- ・設立年：平成16年
- ・従業員：19名

事業者沿革

- ・昭和50年：高校卒業後、梅栽培農家の農業後継者として就農
- ・平成16年：有限会社高田果園設立
- ・平成23年：6次産業化総合化事業計画認定及び有機JAS認証とリキュール製造免許取得
- ・平成26年：有限会社高田果園を農業生産法人に改革し、併せて総合化事業計画変更認定取得

取組内容

- JAS有機農産物認定番号及び有機加工食品認定番号取得し、JAS有機紫蘇梅干し及びJAS有機梅酒の製造販売を行っている。
- 和歌山県特別栽培農産物制度で梅栽培と特別栽培梅干しの製造・販売に取り組んでいる。
- 有機農業の更なる拡大に向けて、循環型農業の梅園モデル圃場を整備中である。
- 平成21年に設立したNPO法人「南高梅の会」で就労継続支援A型の認定受け、障害者の就農支援と梅加工製造による社会福祉活動を実践中である。

取組成果

- JAS有機栽培による有機紫蘇梅干し商品は大変好評であり取引先が増加し、売上高も順調に推移している。
- 平成26年に6次産業化推進整備事業を活用して、有機紫蘇梅干し製造のハウス施設等の整備を行ったことが経営改善に繋がり効果が高かった。
- 商談会等において、「安心・安全」及び「特徴のある、こだわりの商品」を求める声が強く、JAS有機栽培の商品開発に取り組んでいることが成果を得た1つの要因でもある。
- 障害者就労支援として梅加工製造の職場作りに取り組み、農福連携に参画出来たことが、地域の社会福祉活動に少しでも貢献できたと思っている。

今後の展開

- JAS有機栽培の先駆者として積極的に県循環型農業の確立を図りながら、地域への波及と推進役を果たしたい。
- 耕作放棄地が増加しているが、農地中間管理機構の支援等により栽培面積の規模拡大を目指す。
- 今後、JAS有機梅栽培の基本的なデータを蓄積し、機能性表示食品開発に取り組む。



有機しそ梅



梅酒



有機しそ畑

県下最初の機能性表示食品受理で6次産業化の 更なる飛躍を目指して

株式会社 早和果樹園



みかん園地とスタッフ

事業者概要

- ・所在地：和歌山県有田市宮原町東 349-2
- ・代表者：代表取締役社長 秋竹新吾
- ・設立年：平成12年
- ・従業員：64名

事業者沿革

- ・昭和54年：7戸のみかん専業農家で早和共撰を創業
- ・平成12年：有限会社早和果樹園を設立
- ・平成17年：有限会社早和果樹園を株式会社早和果樹園に組織変更
- ・平成25年：6次産業化総合化事業計画認定取得

取組内容

- 平成15年、特産の有田みかんに付加価値つけるため加工品開発に着手、みかんの皮を剥いて裏ごしする「チョッパー・パルパー方式」で、みかんジュース「味ーしぼり」を製造販売する。
- 株式会社早和果樹園設立後、加工製造事業の展開を加速化し、「飲むみかん」や味ージュレ、みかポン等多数の商品アイテムを開発する。
- 社員全員で販路開拓を行い、試飲・試食を年間65万人のお客に直接対峙して商品PRを行う。
- IT企業と連携して、ICT農業システムによる更なる高品質みかんの安定生産に取り組んでいる。

取組成果

- 売上高も順調に増大し、従業員64名の他、臨時職員50～60名の会社に成長し、近年は毎年大学新卒者の入社や中山間地域の働く場を提供して、地元雇用を大切にしている。
- 近隣農家や農協等から高品質な加工用みかんを高値で買取る等農家所得向上に繋がっている。
- 会社設立以来、長年会社発展に貢献している高齢女性達の豊かな経験と細やかな女性の感覚を生かすため、平成27年株式会社「早和なでこ」を設立して女性の社会進出に取り組んでいる。
- 平成26年第2回 6次産業化優良事例表彰で農林水産大臣賞受賞、平成27年に内閣官房及び農林水産省の農山漁村活性化優良事例「デイスカパー農山漁村(むら)の宝」に選定される。
- 平成28年12月、「味ーしぼり 720 ml」が消費者庁から機能性表示食品として届出受理される。和歌山県食品加工事業者では第1号の届出受理である。

今後の展開

- みかんの皮・フクロの残渣を商品化して、機能性食品開発など有田みかんの付加価値を高める。
- 国内の人口減少、市場の縮小傾向に対して、海外への販路拡大を推し進める。
- 地域に信頼され、地域に貢献できるみかん産業のリーディングカンパニーを目指す。



味ーしぼり



機能性表示食品味ーしぼりの箱



アンテナショップ「味ーSHOPSOWA」

自然豊かなすさみ町で誕生したイノブタ加工品、 イブ美豚を全国に発進

株式会社 イブファーム

事業者概要

- ・所在地：和歌山県西牟婁郡すさみ町周参見 4878-1
- ・代表者：代表取締役 坂本信也
- ・設立年：平成25年
- ・従業員：20名(臨時雇用含む)



加工場

事業者沿革

- ・平成25年：株式会社「いこいの村わかやま」のイノブタ事業部を組織改革し、株式会社イブファームを設立
- ・平成25年：すさみ町内の養豚農場譲渡により養豚事業を開始、同年ニイノブタ B1 生産開始
- ・平成25年：6次産業化総合化事業計画認定取得
- ・平成26年：総務省補助事業で新イノブタ施設及び6次産業化推進整備事業で加工機械整備

取組内容

- 高品質なイノブタ肉質保持のため、オガクズや有効微生物を活かしたバイオヘッド方式と乳酸菌発酵による自家配合飼料で生産している。
- イノブタ F1 を肉質改良して出来た新品種イノブタ B1 飼育とハム・ソーセージ等加工品開発に取り組む。
- 各種商談会に出店、百貨店催事やギフト商品開発等により知名度が高まり、また道の駅や食品小売店との販売も拡大、通販取引も増加している。

取組成果

- イノブタ B1 から生まれた「イブ美豚」のハム、ソーセージ等の商品を開発し、すさみ町のイノブタを全国に情報発信している。
- 大手飲料会社主催の「選ぼうニッポンのうまい2013」に認定され、また既存商品「イブの恵み」がプレミアム和歌山推奨品に認定されている。
- 毎年地元すさみ町と連携して、イノブタ王国建国祭等の多彩なイベントを開催したり、情報発信を行うことで、メディアで紹介される等積極的に地域活性化に取り組んでいる。

今後の展開

- イブ美豚の知名度高めるため、先ず地域の人々に地元ブランドとしての認知度を高め、すさみ町や商工会と連携してイベント開催や道の駅での販売拡大等の取り組みを強める。
- イブ美豚の新商品開発と県畜産試験場の協力を得て、より美味しいイノブタ肉の改良に取り組む。
- 国内外の観光客へのイノブタ料理の情報発信と消費拡大を目指す。



イブ美豚商品



美豚肉



環境に優しい栽培で生産したじゃばらと みかんの加工品開発

紀伊路屋 長谷農園



園主夫婦

事業者概要

- ・所在地：和歌山県有田郡広川町611
- ・代表者：長谷光浩
- ・設立年：平成16年
- ・従業員：3名(臨時雇用)

事業者沿革

- ・平成 元年：地元農協、共同選果場を退職後、自家のみかん専業農家の後継者として就農
- ・平成19年：商工会の「アグリビジネス経営革新熟」に参加し、6次産業化の契機となる
- ・平成22年：みかん、じゃばらの加工品開発を外部委託で製造開始し、6次産業化に取り組む
- ・平成25年：じゃばらの粉末加工品開発等で6次産業化総合化事業計画認定取得

取組内容

- 環境に優しい果樹栽培を実践するために、和歌山県エコファーマー認定取得及びJAS有機農産物生産工程管理者を取得する。
- 他商品との差別化を図るために熊野古道・紀伊路が自家農園に隣接している事に注目し、屋号を紀伊路屋と命名し、パッケージやホームページを作成しじゃばら商品の販売に取り組む。
- じゃばら及びみかんの無添加ストレート果汁、マーマレード等は外部委託で製造・販売している。
- 平成26年に地域の農家とじゃばら加工組合を設立し、和歌山県山村地域活性化補助事業活用して加工施設を整備し、果皮乾燥、パンダー加工等1次加工品製造に取り組んでいる。

取組成果

- 道の駅、農産物直売所等の販路に加え、東京、大阪等の商談会に参加することによりスーパーとの取引が増え、売上高も順調に増加した。
- 6次産業化に取り組んだ結果、加工品開発販売している農家や食品加工業者、食品販売会社、支援機関等の多くの関係者とネットワークの構築ができ、一果樹農家が新しい視野と感覚で農業経営ができるようになった。
- じゃばら加工組合を設立して商品開発に取り組み、地元雇用もでき地域活性化に繋げている。

今後の展開

- じゃばらとみかんのコラボ商品や青みかんのパウダー商品の開発及び付加価値の高い機能性表示食品の高い商品化開発を目指す。
- じゃばらの特性生かした新商品開発も積極的に行うとともに、欧州への輸出にも取り組む。
- 災害事の備蓄用のじゃばらコラボ商品の開発を、食品加工業者や地域、関係機関と連携して行い、地域の防災に役立つ加工品開発を目指す。



じゃばらマーマレード



じゃばらストレート果汁



じゃばら果皮粉末

色や形、見た目だけで野菜を選ばないで!こざわり農家

青ネギと唐辛子の調合でやに こいうまい!ネギスコヴィル製造

カワバタファーム



カワバタファームのネギとソース

事業者概要

- ・所在地：和歌山県日高郡印南町印南3466
- ・代表者：川端泰良
- ・設立年：平成15年
- ・従業員：2名(常勤雇用)

事業者沿革

- ・平成12年：大阪市から印南町に移住し、新規就農を決意
- ・平成13年：住居と農地を借りて本格的に農業を始める
- ・平成15年：屋号を「カワバタファーム」と命名する
- ・平成26年：6次産業化総合化事業計画認定取得

取組内容

- 有機肥料で耕した良質な土壌と減農薬栽培で、農地150aで周年栽培のねぎ1haを主体に、トウモロコシ60a、メロン20a、小玉スイカ20a等の野菜栽培に取り組む。
- 農作業を体験して食の大切さ、自然の厳しさ、本当の野菜の味を知っていただき、ゲラゲラ笑える農業とカワバタファームの顧客に感謝を込めた「ゲラファミリー」制度を立ち上げる。
- 出荷出来ないネギの加工品開発に挑戦し、ネギソースとネギの堅焼き煎餅の6次産業化に取り組む。
- インターネット販売やゲラファミリーへの宅配に取り組む。

取組成果

- 6次産業化商品のネギスコヴィルは、阪和自動車道印南SAや県内の道の駅で好評販売されている。
- 食品卸業者を通じて百貨店や高級小売店との取引も少しずつ増加し、販路拡大中である。
- 農業体験活動の実施により、カワバタファームのファンの拡大は環境に優しい生鮮野菜と加工品の宅配・通販の販売拡大に繋がっている。
- 平成28年、「ネギスコヴィル」が消費拡大に優れた取り組みや商品を表彰する農林水産省等の主催「フード・アクション・ニッポンアワード2016」100選に選ばれる。

今後の展開

- トウモロコシ、メロン等のソース新商品開発して、ネギスコヴィルとの姉妹商品やギフトセット商品化を目指す。
- 28年に和歌山県農家民泊施設等認定書を取得し、平成29年から念願の農家民宿に組み、農業体験活動を強化する。



ネギスコヴィル



ネギスコヴィルのパンフレット



ネギ

粃殻堆肥で育てた美味しいあらかわ 桃ピューレの商品開発

株式会社 八旗農園



八旗農園スタッフ

事業者概要

- ・所在地：和歌山県紀の川市桃山町元 266-3
- ・代表者：代表取締役 山崎芳雄
- ・設立年：平成26年
- ・従業員：4名(臨時雇用20名)

事業者沿革

- ・平成21年：民間会社退職後、新規就農し任意団体「八旗農園」を設立と桃直売所を開設
- ・平成26年：2月に任意団体八旗農園を法人化し、株式会社八旗農園を設立
- ・平成26年：6次産業化総合化事業計画認定取得
- ・平成26年：日本政策金融公庫融資で桃加工所を整備し、加工品製造を開始

取組内容

- 平成26年、あらかわの桃による1次加工品として桃ピューレの製造販売。
- 桃ピューレの販路開拓としてスーパーマーケットトレードショー、JTB等の各種商談会に参加し、取引先の拡大に繋げた。
- 桃加工品の品質向上や製造技術改善を目的に、産業振興財団の研究会参加及び食品加工業者との技術連携など常に新技術の情報取得し、取引先や消費者ニーズに対応した取り組みを行っている。
- 和歌山県との連携により、商社を通じて香港の食品業者との取引も成立し、輸出にも取り組んでいる。

取組成果

- 食品加工業者や高級食品小売店と商談成立とともに、桃ピューレの製造が平成26年5t、平成27年8t、平成28年14tと順調に増大している。
- 高速道路SAや自社の桃直売所での売上高も順調に増えている。
- 6次産業化に取り組んで多くの関係者とのネットワークの構築出来たことが大きな力になった。
- 会社設立後3年経過して、生産と加工、販売の6次産業化の基礎が出来た。

今後の展開

- 桃栽培面積の拡大と加工品製造量の増大を目指して、雇用の拡大と人材育成に取り組む。
- 企業との連携による1次加工品開発及び自社ブランドの商品開発を強化する。
- 地域の桃農家や地元農協との連携を強化し、伝統の「あらかわの桃」の名産地を維持発展するために農業後継者育成に積極的に取り組む。
- 経営改善や商品の品質向上を図るための各種研修会、セミナー等にも積極的に参加し、情報の収集、ノウハウを蓄積し経営の安定、発展を目指す。



桃直売所



和歌山県6次産業化サポートセンター

(和歌山県中小企業団体中央会内)

和歌山市十番丁19番地 Wajima十番丁ビル4階

TEL 073-431-0852

FAX 073-431-4108

URL <http://www.chuokai-wakayama.or.jp/>